

授業科目	就職実務〔トレ 2〕		担当教員	藤田 真	
対象年次・学期	3 年／2 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	1. 就職活動の流れを理解し、早期内定を得るよう円滑な就職活動へと繋げる。 2. 就職決定に向け自分自身を理解すること、客観的視野で自己分析を行うことへと繋げる。				
到達目標	就職内定を目標とした社会人基礎力を身に付け、様々な考え方を学び、社会人としての行動、判断、表現をすることができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料・プリント配布などを行う				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	レポートおよび提出課題（履歴書作成）、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	0			
	提出物	30			
	その他	40			
履修上の留意事項	パワーポイントや配布資料を中心として授業を実施をします。メモをとる習慣をこの授業内でも身に付けましょう。 毎回、数名の学生に時事問題についての発表を行ってもらいます。全員が発表対象となりますので、しっかりと準備しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	就職の現状、就活スケジュール、受験報告書の作成・提出 求人票の見方、求職票の書き方、履歴書台本作り【パソコン持参】		
	2	就活準備（1）	履歴書の書き方（練習用紙への記入、下書き作成、筆記用具・定規必須）		
	3	就活準備（2）【課題授業】	履歴書完成【期日までに 2 枚提出】		
	4	就活対策（1）	志望動機の作成について（自己 PR 作成、長所・短所）【パソコン持参】		
	5	就活対策（2）	道スポドリルの活用（適性検査）【WEB 提出、パソコン持参】 企業へのアポイントの取り方		
	6	選考試験対策（1）	選考試験の種類と対策 面接試験対策（基本動作・身だしなみ・事前準備）		
	7	選考試験対策（2）	面接試験対策（成功例と失敗例、質問内容） 面接試験対策（グループディスカッション、集団面接）		
	8	企業説明会の参加と企業研究	企業説明会とは（参加準備・企業研究）		
	9	学内企業説明会【レポート提出】	学内企業説明会参加、企業研究レポートの作成		
10	選考試験対策（3）	内定礼状の作成 筆記試験対策（時事問題・一般常識テスト・小論文・レポート）			

	11	選考試験対策（４） 【課題授業】	筆記試験対策課題（一般常識テスト・小論文・レポート提出）
	12	就職に向けて（１）	社会人基礎力とは（身に付けるべき必要なこと） プレゼンテーション力を身につける
	13	就職に向けて（２）	グループディスカッション
	14	就職に向けて（３）	就職法規の基礎知識について 未決定者の今後の取り組み
	15	就職に向けて（４）	就職への心構え（内定後の学校生活、未決定者の今後の取り組み）

授業科目	就職実務〔トレ2〕	担当教員 実務経験	齋藤敬男 有：□ 無：■	
対象年次・学期	3年／2年・前期	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	健康プログラムⅠ〔トレ2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようになる。				
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようになる。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内での小テストやレポート、その他出席状況や授業態度等を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	30			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識＋応用（現場経験）＝専門（プロ）となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容、成績評価基準、諸注意等の説明		
	2	Ⅰ運動と健康	運動と健康		
	3	Ⅰ運動と健康	スポーツプログラマーの役割		
	4	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング①		
	5	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング② 着地衝撃とその緩和法		
	6	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	フィットネストレーニング③ 投動作と打動作の共通点、運動と流体力		
	7	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	マシーントレーニング		
	8	Ⅱフィットネス・エクササイズの理論と実際	ヘルス・エクササイズ		
	9	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	フィットネス・エクササイズと体調① 1) 体調チェックの意義と方法		
	10	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	フィットネス・エクササイズと体調② 2) スポーツと疲労回復(栄養と休養)		
	11	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン①		
	12	Ⅲフィットネス・エクササイズと健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン②		
	13	運動生理学	運動と血液・体液 成長期における体力・基本的動作のスキル発達		
	14	運動生理学 まとめ①	成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下 体力に及ぼす先天的・後天的効果 学習内容の復習		

	15	まとめ②	学習内容の復習
--	----	------	---------

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	検定対策Ⅳ〔MT2・PH2・健康2〕		担当教員	喜多 奎介		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	0回	時間数	30時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。					
到達目標	健康運動実践指導者理論試験合格を目標とする。					
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。			
	レポート	0				
	小テスト	40				
	提出物	30				
	その他	30				
履修上の留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習していきましょう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	練習問題・解きなおし①	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	2	練習問題・解きなおし②	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	3	練習問題・解きなおし③	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	4	練習問題・解きなおし④	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	5	模試①	試験本番を想定した模試の実施			
	6	練習問題・解きなおし⑤	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	7	練習問題・解きなおし⑥	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	8	練習問題・解きなおし⑦	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	9	練習問題・解きなおし⑧	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	10	模試②	試験本番を想定した模試の実施			
	11	練習問題・解きなおし⑨	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	12	練習問題・解きなおし⑩	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	13	練習問題・解きなおし⑪	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			
	14	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし			

		⑫	
	15	模試③	試験本番を想定した模試の実施

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	健康運動実践指導者対策実技〔MT2・PH2・SB2〕		担当教員	田中 いぶき		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	健康運動実践指導者検定合格に向けて、レジスタンス運動・有酸素運動の指導実践ができるようになる。					
到達目標	健康運動実践指導者実技試験を合格するレベルで指導できる。					
テキスト・参考図書等	プリント、DVD					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	小テストでは模擬試験での評価とする その他は積極的な受講姿勢等で評価する			
	レポート	0				
	小テスト	50				
	提出物	10				
	その他	40				
履修上の留意事項	スタジオ・プールでの指導実践が中心となる。健康運動実践指導者に必要な指導能力を理解し、指導者としての資質向上を目指し取り組んでいきましょう。皆さん自身の指導実演能力が問われる資格です。この授業で100%合格できる自信をつけられるよう学んでください。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	(共通)ガイダンス	(共通)授業の進め方について説明・検定内容の説明、ステップの確認、W-up・C-down			
	2	有酸素運動・レジスタンス運動の基礎学習	DVD視聴および内容の把握・暗記、実演、W-up・C-down			
	3	指導練習①	レジスタンス運動の指導方法			
	4	指導練習②	レジスタンス運動の指導方法			
	5	指導練習③	レジスタンス運動の指導方法			
	6	指導練習④	レジスタンス運動の指導方法			
	7	指導練習⑤	有酸素運動の指導方法			
	8	指導練習⑥	有酸素運動の指導方法			
	9	指導練習⑦	有酸素運動の指導方法			
	10	指導練習⑧	有酸素運動の指導方法			
	11	指導練習⑨	5分間の実践指導練習			
	12	指導練習⑩	5分間の実践指導練習			
	13	指導練習⑪	検定試験と同様の形で実技試験の実施			
	14	模擬試験	検定試験と同様の形で実技試験の実施			
	15	模擬試験	検定合格基準に満たない学生対象の再試験実施			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	JATI 理論対策〔トレ 2〕		担当教員	菊地 健太	
対象年次・学期	AT・MT・PHⅡ、TR・IN・COⅡ+SBⅡ/前期		必修・選択区分	AT・MT・PHⅡ必修、TR・IN・COⅡ必修+SBⅡ選択者/	単位数
授業形態			授業回数	0 回	時間数 30 時間
授業目的	JATI トレーニング指導者資格試験に必要なとなるトレーニング科学、運動生理学、解剖学、栄養学、コンディショニングなどの基礎理論を体系的に学習する。 また、資格試験の出題傾向を踏まえた問題演習を行い、トレーニング指導者として必要な知識を理解するとともに、資格試験合格に必要な知識の定着を図る。				
到達目標	JATI 資格試験の基礎理論を理解できる トレーニングに関わる身体の構造・機能を説明できる 各種トレーニング理論の基本を理解できる 栄養やコンディショニングの基本的な考え方を説明できる JATI 試験レベルの問題を解答できる				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト〔理論編〕 3 訂版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験				
	レポート				
	小テスト	50			
	提出物				
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス・JATI 資格制度	授業の目的、評価方法の説明 JATI トレーニング指導者資格の概要 資格取得の流れ		
	2	体力トレーニング論	体力の概念 防衛体力・行動体力		
	3	運動と栄養	運動と栄養の基礎理論		
	4	運動と栄養	対象と目的に応じた栄養摂取		
	5	運動と医学	生活習慣病		
	6	運動と医学	生活習慣病復習		
	7	小テスト			
	8	運動と医学	スポーツ外傷		
	9	運動と医学	救命救急法		
	10	運動と心理	運動と心理の基礎理論		
	11	運動と心理	運動学習と指導法		
	12	運動生理学	呼吸循環系・エネルギー代謝と運動		
	13	運動生理学	骨格筋系、神経系、内分泌系と運動		

	14	総復習	
	15	小テスト	

授業科目	JATI 理論対策〔トレ 2〕	担当 教員 実務 経験	菊地健太 有：■ 無： □	JATI トレーニング指導者
対象年次・学期	AT・MT・PHⅡ、TR・IN・COⅡ+SBⅡ/前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅲ〔トレ2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	コンディショニングの概念	コンディショニングの概念とその要素		
	2	トレーニングの基礎	超回復、ATP 産生について		
	3	トレーニングの基礎	筋線維タイプ、筋収縮様式について		
	4	トレーニングの原則	7 原則の確認		
	5	ピリオダイゼーション	GAS 理論、期分けの分類		
	6	トレーニングカテゴリー	トレーニングの分類		
	7	レジスタンス Tr・プライオメトリクス	具体的種目の確認、その目的と効果		
	8	パワーエクササイズ	具体的種目の確認、その目的と効果		
	9	アジリティーTr	具体的種目の確認、その目的と効果		
	10	エンデュランストレーニング	具体的種目の確認、その目的と効果		
	11	コーディネーショントレーニング	具体的種目の確認、その目的と効果		
	12	サーキットトレーニング	具体的種目の確認とその目的と効果		
	13	フィットネスチェック	筋力、筋持久力、筋パワーの測定方法、全身持久力、アジリティーの各種測定方法		
	14	クーリングダウン	クーリングダウンの方法と実際		
	15	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの方法と実際		
	16	運動療法の基礎知識と	全身持久力とアスリハ①		

		用語	
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツと指導者Ⅱ〔トレ2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	0回	時間数
授業目的	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識（けが、障害、疾病）など、幅広い知識の習得に努める。				
到達目標	指導する立場として、あらゆる対象者に、基本的な知識・技能をほかの分野と関係づけて説明できる。				
テキスト・参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内で行う小テスト及び課題等の提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	60			
	提出物	10			
	その他	30			
履修上の留意事項	1. 講義形式により行う（パワーポイント、プリント、板書） 2. 随時課題や小テストにより理解を深める、あらゆる分野の指導者となる意識を高め、それに伴う確かな知識と技術を習得できるよう努める姿勢を保っていて下さい。知識の財産を蓄え、人間性を養って下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	<ガイダンス> スポーツトレーニングサイクル／スポーツパフォーマンス構造論／ トレーニング目標論		
	2	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニング手段・方法論／トレーニング計画論／ 試合行動論		
	3	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	トレーニングアセスメント／トレーニングと休養の バランス／ トレーニング環境の整備と効果的遂行の条件		
	4	体力のトレーニング	身体のしくみと動き		
	5	体力のトレーニング	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給		
	6	体力のトレーニング	体力を構成する要素の体系／体力トレーニングの 原理・原則／ トレーニングの種類		
	7	前半振り返り	前半振り返り/中間テスト		
	8	スキルトレーニング	スキルトレーニング		
	9	スポーツバイオメカニクス	運動する物体の性質、力学的エネルギー、力積等		
	10	スポーツバイオメカニクス	弾性エネルギー、摩擦力、流体力学等		
	11	スポーツに関する医学的知識	スポーツと健康／アスリートの健康管理／アスリートの 内科的障害と対策 女性アスリートの障害と対策／スポーツによる精		

			神障害と対策
	12	スポーツに関する医学的知識	外傷・障害の予防／コンディショニングの手法 救急処置（救急蘇生法）／救急処置（外科的応急処置）
	13	スポーツと栄養	5 大栄養素の役割と特徴／アスリートの栄養摂取の考え方／ サプリメント摂取の注意点
	14	スポーツと栄養	基本の食事／水分補給／栄養・食事計画の立案
	15	まとめ	授業内容の振り返り/まとめテスト

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	生活習慣病の知識 〔MT3・PH3・MT2〕		担当教員	上田 竜也		
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	生活習慣病における疾患名やその病態、危険因子、治療やどのような経過を辿るか理解すること。 また、幅広い知識を習得することで資格取得向上に繋げ、より高度な指導ができるトレーナーや医療人となれるようにする。					
到達目標	生活習慣病に繋がる疾患名とその病態を理解する。					
テキスト・参考図書等						
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	50	受講姿勢、受講態度等を総合的に評価します。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	0				
	その他	50				
履修上の留意事項	配布プリントに沿った講義展開を行います。 課題を提出してもらうこともあります。（その際は事前に通達します。）					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	授業内容説明・生活習慣病に関わる就職先や仕事内容、生活習慣病の定義			
	2	生活習慣病概要	生活習慣病の原因と起因する疾病・歴史・現状			
	3	メタボリックシンドローム①	概念、判断基準、運動の意義、予防、治療、問題			
	4	肥満・肥満症①	定義、判断基準、減量の考え方、予防、治療、運動療法の適応と禁忌、問題			
	5	肥満・肥満症②	定義、判断基準、減量の考え方、予防、治療、運動療法の適応と禁忌、問題			
	6	高血圧①	定義、診断基準、分類、合併症、自然歴、治療、減量、問題			
	7	高血圧②	定義、診断基準、分類、合併症、自然歴、治療、減量、問題			
	8	確認小テスト①	履修した内容の確認テスト			
	9	脂質異常症	定義、分類、予防、治療、運動療法の指針、問題			
	10	耐糖能異常・糖尿病①	概念、分類、診断基準、病態、有病率、合併症、治療の基本と実際、問題			
	11	耐糖能異常・糖尿病②	概念、分類、診断基準、病態、有病率、合併症、治療の基本と実際、問題			
	12	虚血性心疾患とリハビリテーションにおける運動処方①	心疾患の理解、定義、概念、病態理解、分類、冠危険因子、心血管リハの効果、機序、適応、禁忌、内容を理解し、問題を解く。			
	13	虚血性心疾患とリハビリテーションにおける運動処方②	疾患の理解、定義、概念、病態理解、分類、冠危険因子、心血管リハの効果、機序、適応、禁忌、内容を理解し、問題を解く。			

	14	ロコモティブシンドローム①	定義、概念、運動器疾患と障害、判定基準、サルコペニア、フレイル、対処方法、問題
	15	ロコモティブシンドローム②	定義、概念、運動器疾患と障害、判定基準、サルコペニア、フレイル、対処方法、問題
	16	確認小テスト②	履修した内容の確認テスト
	17	運動器退行性疾患	概念、有病率、危険因子、運動指導、治療ガイドライン、問題
	18	骨粗鬆症	概念、定義、病態理解、分類、治療や予防を理解する。
	19	呼吸器疾患①	COPDを理解する。
	20	呼吸器疾患②	COPDを理解し、問題を解く。
	21	悪性新生物（がん）①	成因、病態、罹患数、検診、対策、運動と食事の意義、問題
	22	悪性新生物（がん）②	成因、病態、罹患数、検診、対策、運動と食事の意義、問題
	23	認知症①	分類、危険因子、軽度認知障害の重要性、運動の意義、問題
	24	認知症②	分類、危険因子、軽度認知障害の重要性、運動の意義、問題
	25	確認小テスト③	履修した内容の確認テスト
	26	高尿酸血症	概念、定義、病態理解、分類、治療や予防を理解する。
	27	脳卒中	概念、定義、病態理解、分類、治療や予防を理解する。
	28	生活習慣に関連する生活習慣病を全体的に再理解する	食習慣、運動習慣、飲酒習慣、喫煙習慣、ストレスと休養習慣の5つに着眼して理解する
	29	年間復習	学習してきた内容を復習
	30	確認小テスト④	履修した内容の確認テスト

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	JATI トレーニング指導者 対策〔AT3・MT3・AT2・ MT2・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	菊地 健太	
対象年次・学 期	3 年／2 年・集中		必修・選択区 分	必修 (PHⅢ・ TRⅡ)・選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導の専門家として活動する為の知識を学ぶ。				
到達目標	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要とされる知識を習得し、JATI トレーニング指導者の資格試験に合格する。				
テキスト・ 参考図書等	トレーニング指導者テキスト理論編／トレーニング指導者テキスト実践編／その他配 布プリント等				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	その他(受講姿勢等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の 留意事項	各章に対しての出題				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 1	トレーニング指導者論／各種トレーニング法の理論 とプログラム（筋力・パワー持久力）		
	2	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 2	各種トレーニング法の理論とプログラム（スピー ド・柔軟性・特別な対象）		
	3	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 3	各種トレーニング法の実際（筋力トレーニングの実 際）		
	4	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 4	各種トレーニング法の実際（パワー・持久力・スピー ド・柔軟性向上）		
	5	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 5	トレーニングの効果の測定と評価（測定データの活 用）		
	6	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 6	体力総論／機能解剖／バイオメカニクス／運動生理 学／栄養		
	7	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 7	運動と栄養／運動と心理／運動と医学／運度指導の 科学		
	8	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 1	一般科目 1		
	9	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 1	専門科目 1		
	10	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 2	一般科目 2		
	11	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 2	専門科目 2		
	12	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 3	一般科目 3		
	13	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 3	専門科目 3		

	14	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 4	一般科目 4
	15	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 4	専門科目 4

授業科目	JATI トレーニング指導者 対策〔AT3・MT3・AT2・ MT2・IN2・CO2・SB2〕	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学 期	3 年／2 年・集中	担当 教員	大菅貴広	トレーニング指導者
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員	菊地健太	トレーニング指導者
		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
実務 経験				

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	コミュニケーションⅡ 〔MT2〕		担当教員	小笠原 鷹介		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	1年次からの応用として、コミュニケーションを通じて、課題克服への積極的挑戦から自信に繋げる。					
到達目標	自主的に話題性をもって、人に関わり、立ち位置を確立できるようになる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）			
	レポート	20				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	60				
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	就職活動に向けて①	履歴書の記入方法			
	2	就職活動に向けて②	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか			
	3	就職活動に向けて③	業界研究 進みたい分野における調査			
	4	就職活動に向けて④	就職情報サイトの利用方法			
	5	面接試験に向けて①	心構え、様々な面接試験について			
	6	面接試験に向けて②	入退室、面接試験体験①			
	7	面接試験に向けて③	入退室、面接試験体験②			
	8	一般常識①	漢字（読み・書き）			
	9	一般常識②	丁寧語、敬語			
	10	一般常識③	挨拶、接遇			
	11	一般常識④	マナー、一般常識（応用）			
	12	一般常識⑤	ペア対話、グループ対話			
	13	まとめ①	確認テスト（読み・書き・丁寧語・敬語）			
	14	まとめ②	確認テスト（挨拶・接遇）			
	15	まとめ③	確認テスト（マナー・一般常識応用）			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	メディカルフィットネストレーニング〔MT2〕		担当教員	大森 達也	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	0 回	時間数 60 時間
授業目的	医療現場で必要となる基礎知識を学び、活躍できるメディカルフィットネストレーナーとなるためのスキルを身に付ける。				
到達目標	メディカルフィットネストレーナーの業務内容を理解し、現場で活躍するために必要な知識と実践力を身に付ける。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験				
	レポート	30%			
	小テスト	30%			
	提出物				
	その他	40%			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	背景と授業内容について/科目の必要性について/レポート作成		
	2	ガイダンス②	背景と授業内容について/科目の必要性について/レポート作成		
	3	MFT の意義	MF の現状と今後の展望/MF の現状		
	4	MFT の意義②	MF の現状と今後の展望/MF の現状②		
	5	疾患と対象	MFT の対象理解/一般臨床と対象/レポート		
	6	疾患と対象②	MFT の対象理解/一般臨床と対象/レポート②		
	7	医療現場の現状	医療現場のリハビリ/病院の仕組み		
	8	医療現場の状況②	医療現場のリハビリ/病院の仕組み②		
	9	MFT ロジック	MFT の流れ/トレーニングメソッド		
	10	MFT ロジック②	MFT の流れ/トレーニングメソッド②		
	11	リスク管理	環境と医療用具、補装具/物療、リハ治療体験		
	12	リスク管理②	環境と医療用具、補装具/物療、リハ治療体験、実技(車いす、松葉)		
	13	MFT の目的と分類	目的と運動効果		
	14	MFT の目的と分類②	腹筋、有酸素(実技)		
	15	MFT の概要	測定と評価の意義		
	16	評価(呼吸器系)	呼吸機能、呼吸運動、WBI、周径		
	17	評価(呼吸器系)②	肺活量計、体組成計、メジャー(実技)		

	18	評価(循環器系)	血圧、負荷試験、心拍数指標、RPE
	19	評価(循環器系)②	血圧計、ステート
	20	総括①	疾患まとめ
	21	総括①(2)	問題
	22	疾患別トレーニング①	呼吸循環器系
	23	疾患別トレーニング① (2)	有酸素運動
	24	疾患別トレーニング②	運動器系
	25	疾患別トレーニング② (2)	コンディショニング
	26	リハビリ全般	ADL、機能向上
	27	リハビリ全般②	レッドコード
	28	総括②	全体総括
	29	総括②(2)	問題
	30	振り返り	授業終了後の総振り返り

授業科目	メディカルフィットネストレーニング〔MT2〕	担当教員 実務経験	大森 達也 有：■ 無： □	
対象年次・学期		担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅰ〔トレ2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	評価の目的、意義および役割	現場で必要な評価		
	2	姿勢・アライメント・筋委縮	姿勢の評価基準・指標、スポーツ活動と姿勢		
	3	姿勢・アライメント・筋委縮	筋委縮の観察、計測の目的と意義		
	4	関節弛緩性	関節弛緩性検査の目的、意義および検査方法		
	5	体力測定	体力測定（概論）、一般青年、成人を対象		
	6	体力測定	少年を対象、中・高年齢者を対象		
	7	筋タイトネス	筋柔軟性・筋タイトネスとその検査測定の意義		
	8	全身持久力と敏捷性	全身持久力の目的と意義および手技と測定指標		
	9	全身持久力と敏捷性	敏捷性・協調性の目的と意義および具体的手法		
	10	関節可動域	関節可動域測定の目的、意義および検査方法、留意点		
	11	徒手筋力検査	徒手筋力検査の目的と意義		
	12	徒手筋力検査	判定基準、検査上の留意点、検査手順		
	13	身体組成	目的と意義、および具体的手法		
	14	筋力および筋パワー	目的と意義および検査測定方法		
	15	筋力および筋パワー	機器による筋力評価		
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ①		

	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	就職セミナー〔トレ2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	各学科就職学年前年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	就職への意識づけ、意欲向上を目的とする。				
到達目標	各種セミナーに積極的に参加することで、社会人に必要な知識・能力について理解を深めることができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	セミナー担当者に、各プログラムに対する取り組み状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(セミナー担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「レポート(感想、アンケート含む)」の提出をもって、取り組み状況を把握する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	セミナー参加に対する各自の目標設定等が大変重要となります。就職活動がより充実したものとなるように、積極的にコミュニケーションを図りながら、目標達成を目指してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	就職セミナーの目的説明、挨拶練習、その他		
	2	セミナー①	就職活動と社会人		
	3	セミナー①	就職活動と社会人		
	4	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	5	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	6	セミナー②	シンポジウム(就職活動開始から内定まで、各種試験、その他)		
	7	セミナー③	就活・スーツ・見出しなみについて		
	8	セミナー③	就活・スーツ・見出しなみについて		
	9	セミナー④	就活本番に向けて		
	10	セミナー④	就活本番に向けて		
	11	セミナー⑤	本当に必要な人材とは		
	12	セミナー⑤	本当に必要な人材とは		
	13	セミナー⑥	就活に向けての大切な第一歩！		
	14	セミナー⑥	就活に向けての大切な第一歩！		
	15	まとめ	レポート作成、就職に関する意識調査、各種アンケート等		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	身体の解剖と機能Ⅱ 〔MT2・PH2〕		担当教員	小野寺 良太	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	人体の骨名・筋肉名・神経名などの解剖学的用語を理解できるようにする。				
到達目標	身体のそれぞれの部位の骨や関節、筋肉や神経が、どのように動いてどんな作用を持つのか説明できるようにする。資格試験における解剖の問題を理解して解けるようにする。				
テキスト・参考図書等	①身体運動の機能解剖 ②ステップアップ運動生理学 ③AT 教本2 運動の解剖と機能				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	授業内での試験（小テスト）を中心に提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	80			
	提出物	10			
	その他	10			
履修上の留意事項	＊授業で配布するプリントを整理するファイル（A4サイズ）を用意すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	（学習達成目標、成績評価、諸注意）		
	2	関節の構造・関節の種類・軟骨の種類	関節の基本構造，形状による分類の理解，軟骨の種類		
	3	運動器の解剖・評価・姿勢とアライメント	静的・動的アライメントの理解，動きの基本面と軸		
	4	肩関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	5	肩関節の構造②	〃		
	6	肩関節の構造③	〃		
	7	肘関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	8	肘関節の構造②	〃		
	9	肘関節の構造③	〃		
	10	手関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	11	手関節の構造②	〃		
	12	手関節の構造③	〃		
	13	骨盤・股関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
	14	骨盤・股関節の構造②	〃		
	15	骨盤・股関節の構造③	〃		
	16	膝関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価		
17	膝関節の構造②	〃			

	18	膝関節の構造③	〃
	19	下腿の解剖①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	20	下腿の解剖②	〃
	21	下腿の解剖③	〃
	22	足関節の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	23	足関節の構造②	〃
	24	足関節の構造③	〃
	25	頸椎の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	26	頸椎の構造②	〃
	27	胸椎と胸郭の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	28	胸椎と胸郭の構造②	〃
	29	腰椎の構造①	関節・筋肉・神経・運動と外傷・評価
	30	腰椎の構造②	〃

授業科目	身体の解剖と機能Ⅱ 〔MT2・PH2〕	担当 教員 実務 経験	小野寺良太 有：■ 無： □	アスレティックトレーナ ー、鍼灸師
対象年次・学 期	2 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	JATI 実践対策〔トレ 2〕	担当教員	見田 昌司		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修/選択	単位数	
授業形態	座学	授業回数	0 回	時間数	30 時間
授業目的	トレーニング指導者になる上で必要になってくる知識・技術を習得し、対象者に適切なトレーニングを実施できるようにする。				
到達目標	対象者のニーズを聴取、分析して適切な運動メニューを考案できるようにする。また手本となるトレーニングを見せられるように正確な動作の習得を目指す。				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト〔実践編〕 3 改訂				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	第 8 回、第 15 回時に小テストを実施して採点、評価。また出席、授業態度も踏まえて総合的に評価していく。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 1 章 トレーニング指導者論 1 節 トレーニング指導者の役割 2 節 トレーニング指導者の実務	トレーニング指導者として身につけるべき資質や考え方、知識についてを大きな枠組みで捉えられるようにする。		
	2	2 章 測定と評価 1 節 トレーニング効果の測定と評価	測定と評価の位置付け、測定の実際を学んでいく		
	3	2 章 測定と評価 2 節 測定データの分析とデータの活用方法	前回の授業で学習した内容をもとに、そのデータの活用の方法の仕方を学んでいく。		
	4	3 章 トレーニング理論とプログラム 1 節 長期的トレーニング計画 2 節 レジスタンストレーニング	長期のトレーニング計画を立てられるようにピリオダイゼーションを中心に学習していく。また対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。		
	5	3 章 トレーニング理論とプログラム 3 節 パワートレーニング 4 節 持久力向上トレーニング	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。		
	6	3 章 トレーニング理論とプログラム	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでい		

		5 節 スピードトレーニング 6 節 柔軟性向上トレーニングおよびウォームアップ、クールダウン、リカバリー	く。
	7	3 章 トレーニング理論とプログラム 7 節 特別な対象のためのトレーニングプログラム 8 節 生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム	対象に応じたトレーニング計画を立てる上で、必要になってくるトレーニングの種類を学んでいく。
	8	小テスト 出題範囲 1 章から 3 章まで	小テスト 60 分 その後回答、解説
	9	4 章 レジスタンストレーニングの実技 1 節 レジスタンストレーニングの実技と指導法	実際に部位に応じたレジスタンストレーニング学んでいく。
	10	4 章 レジスタンストレーニングの実技 2 節 パワートレーニングの実技と指導法	パワートレーニング時の留意点と実際の動作について学習する。
	11	4 章 レジスタンストレーニングの実技 3 節 持久力向上トレーニングの実技と指導法	持久力向上トレーニング種類と実施時の留意点を学習していく
	12	4 章 レジスタンストレーニングの実技 4 節 スピードトレーニングの実技と指導法	スピードトレーニングの実施の留意点、アジリティの説明
	13	4 章 レジスタンストレーニングの実技 5 節 ウォームアップと柔軟性向上トレーニング、その他のトレーニングの実技と指導法	ウォーミングアップの実際とバランス、ファンクショナルトレーニングの実際について学習。
	14	教科書のまとめ	試験に出そうな問題の確認 小テストの勉強
	15	小テスト 出題範囲 4 章まで	小テスト 60 分 その後回答、解説

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	運動療法学Ⅰ〔MT2〕		担当教員	上田 竜也	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
					60時間
授業目的	運動療法における基礎理論を学習し、基本的な運動療法を理解する。				
到達目標	対象者に対して運動療法を組み立てることができる。				
テキスト・参考図書等	プリントを用意します。 解剖学、評価、健康運動実践指導者テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	50	講義中における受講姿勢、受講態度等を含め総合的に評価します。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	50			
履修上の留意事項	配布プリントに沿った講義展開。実技を行うこともありますので、ジャージ等動ける服装の準備をお願いします。(実技の際は事前に通達します)				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	学習達成目標、成績評価、諸注意、その他、運動療法学について		
	2	運動と運動療法	運動とは何かを理解する		
	3	関節運動と筋収縮	解剖学を中心に関節運動について理解する		
	4	随意運動について	随意運動に関する脳の構造を理解する		
	5	運動制御と運動学習	基礎的な運動学習について理解する		
	6	運動と神経	運動に関する神経機構の理解、バランスに関する運動と姿勢制御		
	7	運動と呼吸	呼吸メカニズムを理解する		
	8	運動と循環	循環に関する解剖学的構造を理解する		
	9	運動と代謝	運動におけるエネルギー代謝を理解する、		
	10	運動の種類を理解する	基本的な運動の種類を理解する		
	11	運動療法の基礎理論の復習①	基礎理論の復習、小テスト		
	12	運動療法の基礎理論の復習②	小テスト、レポート作成		
	13	基本的運動療法	関節可動域運動について理解、実践する。end feelを確認する。		
	14	筋力増強運動	筋力増強運動の基本的理論を理解、収縮様式別により筋力増強運動を理解し、MMTを理解する。		
	15	MMT（上肢）	徒手筋力テストを実践する		
	16	MMT（下肢）	徒手筋力テストを実践する		

	17	関節可動域制限	関節可動域制限について学習し、主動筋、拮抗筋を理解する。
	18	持久力増強運動	筋持久力と全身持久力の違いを理解する。運動負荷試験を理解する。
	19	協調性運動①	協調性運動と小脳の関係性を理解。協調性運動障害を理解。
	20	協調性運動②	協調性運動障害に対する運動療法を学習し、現場で実践されている運動療法を理解する。
	21	バランス運動①	バランスの概念的整理
	22	バランス運動②	端座位、立位における基本的なバランス評価と運動を実施する。
	23	基本的運動療法における復習	小テスト、レポート作成
	24	運動療法の対象の広がり	ヒトの運動発達を理解する。小児期の疾患を理解し、運動療法の意義や概要を理解する。
	25	脳血管障害患者の運動プログラムの立案	病気の理解を深める。リスク管理を行い、レジスタンス運動や有酸素運動の立案を行う。
	26	女性特有の身体変化とマイナートラブルについて	妊娠・出産に伴う身体変化を理解し、治療展開されている運動療法について知る。
	27	スポーツ選手に対する運動療法①	サッカー現場での運動療法の適応と特徴について知る。
	28	スポーツ選手に対する運動療法②	野球における投球動作フェーズを理解。トレーニングの原理と原則。
	29	運動療法の対象の広がり復習	小テスト、復習
	30	総復習	テスト

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	ビジネススキル〔トレ 2〕		担当教員	高野 文子	
対象年次・学期	2 年・後期 1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
30 時間					
授業目的	スポーツトレーナー・インストラクター・コーチ・イベンターが人と関わる上で必須となる「調和力」「対話力」「礼節力」「対面力」「人間力」を教授する。また、本過程を通して、就活に必要な「自己分析力」「自信」「良い印象」「志望動機」「説得力」を育む。				
到達目標	人間関係のつくり方／コミュニケーションの仕方／傾聴力の高め方／説得力のつくり方／人から信頼される力／自己分析の仕方／自信のつけ方／人と仲良くする力／人と助け合う力／心の調え方／人の導き方／夢をかなえるプロセス／仲間のつくり方、などを習得する。				
テキスト・参考図書等	毎回、資料等を配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	各レポートは、①授業を正しく理解できているか、②課題の意図を理解し適確に回答しているか、③授業内容にそった回答をしているか、④文面に熱意が感じられるか、⑤自分の経験に基づき、自分の意見（A I は採点除外）を述べているか、⑥論理展開に飛躍や矛盾はないか、という観点で評価する。		
	レポート	100			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	配布資料に基づき、パワーポイントで説明を行う。授業スタイルは講義型、問答型、探求型、演習型を適宜選択する。授業では、テーマを楽しく体得できるように、独自のゲーム、ロールプレイング、演習を数多く実施する。なお、評価は毎回のレポートで行う（レポート提出必須）。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	人間関係が楽になる方法	人間関係が辛くなる原因／心はどうやってつくられるのか／思い込みとは何か／意識・無意識の領域／価値観の上書き		
	2	なりたい自分になる方法	脳の機能を知る／思いつきとひらめき／マイナスの思い込み／思い込みを変える方法		
	3	コミュニケーションの仕方	コミュニケーションの目的／コミュニケーションのスイッチ／コミュニケーションの成果／初対面コミュニケーション／調話の仕方		
	4	傾聴力の高め方	相手が話したくなる聴き方／傾聴の留意点（聴話）／相手の感情を聴く／相手の価値観を聴く／相手の幸せを聴く		
	5	思いの伝え方	プレゼンテーションの目的／相手の心に響くプレゼンテーション／共感とは何か／感動とは何か／共感と感動のつくり方／説得力の正体		
	6	人から信頼される力 1	良い印象／印象とは何か／印象はブーケのようなもの／相手に与えたい印象／笑顔／第一印象／初頭効果を意識したあいさつ		
	7	人から信頼される力 2	礼節とは何か／なぜ礼節が必要なのか／わきまえる／謙虚と感謝の心／あいさつの源流／あいさつの仕方／本来のあいさつ／あいさつは何のためにするのか／ワンランク上のあいさつ		
	8	人から信頼される力 3	身だしなみ／立ち方、姿勢、態度、座り方、歩き方、お辞儀、受け渡し、入退室／言葉づかい／言い回し		
	9	自分を知る力 1	あなたはどのような人ですか／人から見た自分／自		

			分を知る五つの意義／性格とは何だろう／二つの魅力／プラス受信で変換
	10	自分を知る力 2	自分の棚卸しをしよう／自分知シートの作り方と見方／自分らしい選択（道しるべ）／魅力を発揮する／自分にエールを贈ろう
	11	調和力 1 心の連鎖	人はなぜ仲良くするのか／和とは何か／調和をもたらす心のあり方／日本代表と折り鶴／有り難いと思う心チェック
	12	調和力 2 利他の循環	調和を妨げるもの／和と礼の関係／利他とは何か／三つの利他／バランスとオールハピネス
	13	調和力 3 調和の実践	美点・欠点と利他の関係／どちらを伸ばす／美点・欠点かるた大会／聴和の姿勢／調和の実践
	14	心の調え方	全ては移り変わる／まあいい心に調える／自分の心を調える／比べる相手／自信のつけ方／相手を導く方法／事例研究
	15	意志の高め方	やる気／意思と意志／具体的な目標／応援し合う仲間／仲間のつくり方／あなたらしい夢をもとう／随所に主となる

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スノーボード・スキー実習Ⅱ〔共通2〕		担当教員	田中 いぶき		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。 スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。					
到達目標	冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する			
	レポート	10				
	小テスト	0				
	提出物	10				
	その他	80				
履修上の留意事項	宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	事前説明会	目的、注意事項伝達			
	2	1日目午後レッスン開始	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ			
	3	1日目ミーティング	1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			
	4	1日目ナイター練習	1日目に学んだことを復習する。			
	5	2日目午前レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ			
	6	2日目午後レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ			
	7	2日目ミーティング	2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			
	8	2日目ナイター練習	2日目に学んだことを復習する。			
	9	3日目午前レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ			
	10	3日目午後レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ			
	11	3日目ミーティング	3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			
	12	3日目ナイター練習	3日目に学んだことを復習する。			
	13	4日目午前レッスン開始	各班に分かれ、検定へ向けてレッスンをする			
	14	4日目検定	今まで学んだことを踏まえて検定に臨む			
	15	4日目ミーティング	4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			

授業科目	スノーボード・スキー実習Ⅱ〔共通2〕	担当教員 実務経験	小笠原 鷹介 有：□ 無：■	
対象年次・学期	2年・集中	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	カレッジイベントⅡ〔トレ2〕		担当教員	田中 いぶき		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。					
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布。					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）			
	レポート	20				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	60				
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	カレッジイベント内容①	イベントの内容説明			
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定			
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認			
	4	イベント実施	スポーツ大会			
	5	振り返り	レポート作成、提出			
	6	カレッジイベント内容②	イベントの内容説明			
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定			
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認			
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル			
	10	振り返り	レポート作成、提出			
	11	カレッジイベント内容③	イベントの内容説明			
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定			
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備			
	14	イベント実施	学園祭			
15	振り返り	レポート作成、提出				

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	メディカルフィットネス実習Ⅰ〔MT2〕		担当教員	中根 望	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	0 回	時間数 60 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	健康づくり運動の理論 〔MT2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	3 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数
					60 時間
授業目的	「健康づくり」を目的とした運動を幅広く理論的に学習し、健康運動指導士が担う運動指導のあり方を理解する。健康運動指導士筆記試験合格を目指す。				
到達目標	健康づくりを目的とした運動プログラムの目的を理解し、自身でプログラムを作成することが出来る。				
テキスト・参考図書等	プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動指導士養成 40 単位講習会」で行わない分野について学習します。一般層における「健康づくり」が目的の運動プログラムについて理解し、健康運動指導士合格に向けて学習して行きましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	健康運動指導士の役割		
	2	トレーニング概論	トレーニングの原則、身体トレーニングを記述するもの		
	3	運動条件と反応・運動強度	特異性・トレーニング期間中の生体反応		
	4	運動条件と反応・運動強度	トレーニング効果のメカニズム		
	5	運動条件と反応・運動強度	トレーニングによる筋持久力増加の背景		
	6	筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果	トレーニング効果に影響を及ぼす要因		
	7	筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果	トレーニングの分類、動的とレーニンウの処方と効果		
	8	確認テスト①	過去内容の確認		
	9	筋パワーと筋持久力トレーニングの条件とその効果	トレーニングによる筋パワー、筋持久力増加の背景		
	10	筋パワーと筋持久力トレーニングの条件とその効果	筋パワーのトレーニング		
	11	筋パワーと筋持久力トレーニングの条件とその効果	筋持久力のトレーニング		
	12	全身運動によるエアロ	有酸素運動と無酸素運動		

		ビクトレーニング	
13	全身運動によるエアロ ビクトレーニング	最大酸素摂取量を高めるトレーニング	
14	まとめ	前期内容のまとめ	
15	確認テスト②	前期内容の確認テスト	
16	オリエンテーション	健康運動指導士の役割の再確認、確認テスト解説	
17	トレーニング方法と効果	前期内容のまとめ	
18	障害者の運動能力の特徴とトレーニング	障がい者とは	
19	障害者の運動能力の特徴とトレーニング	障がい者の運動について、運動指導の流れ	
20	障害者の運動能力の特徴とトレーニング	障がい者の体力測定と評価	
21	障害者の運動能力の特徴とトレーニング	障がい者にとっての身体運動の重要性	
22	確認テスト③	後期範囲の確認	
23	青少年期の成長発育と トレーニング	筋力、持久性能力の発達とトレーニング	
24	青少年期の成長発育と トレーニング	体型と変化	
25	女性の体力・運動能力 の特徴とトレーニング	女性のトレーナビリティ	
26	女性の体力・運動能力 の特徴とトレーニング	妊娠・出産と運動	
27	加齢に伴う体力の自然 減退とトレーニング	加齢に伴う呼吸循環機能の変化	
28	加齢に伴う体力の自然 減退とトレーニング	加齢と有酸素性トレーニング	
29	まとめ	後期内容のまとめ	
30	確認テスト④	後期内容のテスト	

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	検定対策Ⅲ〔MT2・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	健康運動実践指導者試験合格に向けて、実技・理論試験対策を行い、指導者としてのスキルを身に付ける。				
到達目標	健康運動実践指導者試験合格と共に、健康運動実践指導者に求められる知識を習得する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0			
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	40			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、演習問題	授業概要説明 復習演習		
	2	第 1 章 健康づくり施策概論	問題演習、作問		
	3	第 2 章 運動生理学	小テスト、問題演習、作問		
	4	第 3 章 機能解剖とバイオメカニクス	小テスト、問題演習、作問		
	5	第 4 章 栄養摂取と運動	小テスト、問題演習、作問		
	6	第 5 章 運動指導の心理学的基礎	小テスト、問題演習、作問		
	7	第 6 章 体力測定と評価	小テスト、問題演習、作問		
	8	第 7 章 健康づくりと運動プログラム	小テスト、問題演習、作問		
	9	第 8 章 健康づくり運動の実際	小テスト、問題演習、作問		
	10	第 8 章 健康づくり運動の実際	小テスト、問題演習、作問		
	11	第 9 章 運動障害と予防・救急処置	小テスト、問題演習、作問		
	12	健康運動実践指導者理論対策	小テスト、問題演習		
	13	健康運動実践指導者理論対策	小テスト、問題演習		
	14	健康運動実践指導者理論対策	小テスト、問題演習		

	15	前期まとめ小テスト	前期まとめテスト
	16	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	17	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	18	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	19	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	20	健康運動実践指導者理論対策・実技対策	演習問題、実技対策
	21	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	22	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	23	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	24	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	25	健康運動実践指導者理論対策	演習問題
	26	健康運動実践指導者理論対策	問題演習
	27	健康運動実践指導者理論対策	問題演習
	28	健康運動実践指導者理論対策	問題演習
	29	健康運動実践指導者理論対策	問題演習
	30	健康運動実践指導者理論試験 作問	出題問題に沿った作問

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	スポーツと社会〔トレ2〕		担当教員	小笠原 鷹介		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会のなかでスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに発展してきたかを理解する。さらに、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。					
到達目標	わが国のスポーツが社会の中にどのように構築されているか、スポーツ組織の運営と事業展開について学び、多種多様なニーズを持つ人々に対応するために必要な実践的な考え方を身につけることを目標とする。					
テキスト・参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	出席や、毎時間のレポートを提出すること。そのレポート内容と最終確認テストを実施し、総合的に評価する。			
	レポート	60				
	小テスト	30				
	提出物	0				
	その他	10				
履修上の留意事項	提出物・出席数・テスト等、毎回の授業が評価になっていることを理解しながら授業に取り組んでください。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	スポーツの意義と価値	＜ガイダンス＞ なぜ、コーチは「スポーツの意義と価値」を考えなければならないのか／ 社会の中におけるスポーツの価値			
	2	スポーツの意義と価値	文化としてのスポーツ／スポーツの文化的特性			
	3	スポーツの意義と価値	「スポーツ宣言日本」におけるスポーツの意義と価値／ オリンピズムにおけるスポーツの意義と価値の捉え方			
	4	スポーツの価値を守る スポーツ権	スポーツの定義／基本的人権としてのスポーツ／ スポーツの価値／ スポーツ権の内容			
	5	スポーツの自治～ガバナンスとコンプライアンス～	スポーツの自治／グッド・ガバナンスの確立／コンプライアンスとは			
	6	暴力・ハラスメントの根絶	暴力／ハラスメント			
	7	暴力・ハラスメントの根絶	暴力・ハラスメントの根絶のために			
	8	スポーツのインテグリティ	スポーツにおけるインテグリティの確保／アンチ・ドーピング活動／アンチ・ドーピングのルール／ドーピング防止活動推進法／ドーピング違反事例			
	9	アンチ・ドーピング	アンチ・ドーピングとは／アンチ・ドーピングの歴史／ 世界アンチ・ドーピング機構および日本アンチ・ドーピング機構について等			

			レポート課題①
	10	アンチ・ドーピング	ドーピングコントロールの全体像とドーピング検査／結果管理／制裁、上訴／禁止薬物と治療使用特例（TUE）／スポーツ指導者の役割
	11	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ組織の持続可能性／「目的」のマネジメント／「補完」のマネジメント
	12	スポーツ組織のマネジメント	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」／ スポーツ少年団の活動分野と内容／日本スポーツ少年団と総合型クラブとの連携・協働
	13	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ指導者に求められるマネジメント／スポーツ組織の特性
	14	障がい者とスポーツ	障がい者・障がいの理解／障がい者のスポーツの現状と課題
	15	障がい者とスポーツ	障がい者のスポーツ指導者の育成／ （公財）日本障がい者スポーツ協会のビジョン レポート課題②

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	ボランティア活動Ⅱ〔共通2〕		担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	ボランティア活動を通じて、直接的に実践力を身につける。					
到達目標	ボランティア活動先における実務遂行を通じてボランティア精神や各種能力・技術力の向上を図る。					
テキスト・参考図書等						
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	ボランティア活動先の担当者に、実務遂行状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(ボランティア活動先の担当者とは当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	0				
	その他	100				
履修上の留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかりと取りながら、目標達成を目指してください。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	2	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	3	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	4	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	5	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	6	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	7	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	8	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	9	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	10	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	11	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	12	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	13	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	14	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学			

		おける実務遂行	習する
	15	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	健康運動理論Ⅰ〔MT2・PH2・健康2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	全9章分の基礎知識を身に付け、健康運動実践指導者理論試験合格レベルを目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70			
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	30			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・第1章 健康運動づくり施策概論	授業内容説明、諸注意、その他 1)健康と健康増進の概念～ 5)介護予防について		
	2	第2章 運動生理学	1)運動の発現～ 7)運動の持続と呼吸循環系		
	3	第2章 運動生理学	8)呼吸循環系の機能の指標と調節機構～ 15)体力に及ぼす先天的要因(遺伝)と後天的要因(運動実践の効果)		
	4	第3章 機能解剖とバイオメカニクス	1)骨格筋系の機能解剖学～ 4)水中運動と陸上運動の比較		
	5	第4章 栄養摂取と運動	1)健康と栄養～ 8)生活習慣と栄養・食生活		
	6	第5章 運動指導の心理学的基礎	1)運動実践に関わる社会・心理・環境的要因～ 6)個別指導における動機づけとカウンセリング		
	7	第6章 体力測定と評価	1)体力とは～ 7)体力測定結果の分析・評価・活用法		
	8	第7章 健康づくりと運動プログラム	1)健康づくりのための運動・トレーニング原理・原則～ 6)レジスタンス運動		
	9	第8章 健康づくり運動の実際	A)健康運動実践指導者とは～ B)ウォーキングとジョギング		
	10	第8章 健康づくり運動の実際	C)エアロビックダンス～ E)レジスタンス運動(1)(2)		
	11	第9章 運動傷害と予防・救急処置	1)運動前の内科的メディカルチェックについて～ 7)テーピングの技術		
	12	総復習①	1章～3章の復習・補足		
	13	総復習②	4～7章の復習・補足		
	14	総復習③	8～9章の復習¥捕捉		

	15	定期試験対策・まとめ	定期試験範囲の復習
--	----	------------	-----------

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	二年次研究課題Ⅱ〔トレ2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	アスリハの基本的な考え方(1)	段階的なプログラム処方		
	2	アスリハの基本的な考え方(2)	リスク管理／競技特性(体力特性・動作特性)		
	3	アスリハの基本的な考え方(3)	再発予防への配慮		
	4	アスリハの基本的な考え方(4)	安定性、可動性、協調性		
	5	足関節捻挫へのアスリハ(1)	概要説明		
	6	足関節捻挫へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	7	足関節捻挫へのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	8	大腿後面肉離れへのアスリハ(1)	概要説明		
	9	大腿後面肉離れへのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	10	大腿後面肉離れへのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	11	前十字靱帯損傷へのアスリハ(1)	概要説明		
	12	前十字靱帯損傷へのアスリハ(2)	デモンストレーション及び指導		
	13	前十字靱帯損傷へのアスリハ(3)	アスリハプログラムの立案		
	14	肩関節前方脱臼へのアスリハ(1)	概要説明		

	15	肩関節前方脱臼へのアスリハ (2)	デモンストレーション及び指導、アスリハプログラムの立案
	16	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ①
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

